

平成19年度京都市交通事業決算概要

第1 自動車運送事業

経 常 収 入	224億15百万円
経 常 支 出	215億19百万円
経 常 損 益	8億96百万円
△ 累 積 欠 損 金	△122億21百万円
△ 不 良 債 務	△119億95百万円

<主な業務量>

年度末在籍車両数	760両 (750両)
走行キロ数 〔1日平均〕	79.2千km (78.7千km)
旅 客 数 〔1日平均〕	313千人 (309千人)
職 員 数	829人 (886人)

注 () 内は、平成18年度の数値である。

1 決算のポイント

平成19年度決算は、退職手当や燃料費の増加があったものの、「京都市交通事業ルネッサンスプラン」に基づく経営健全化の取組を着実に推進し、人件費や経費の削減に努めるとともに、お客様の増加策やサービス向上の取組の積極的な実施により、お客様数の増加が図れたため、経常損益は、平成15年度決算から5年連続となる黒字（黒字額8億96百万円）を確保した。

2 主要事項

(1) 経営健全化の推進

「京都市交通事業ルネッサンスプラン」に基づき、「管理の受委託」を事業規模の1/2まで拡大したことに伴い、職員数を削減した。

(2) お客様増加策

洛バス101号系統をはじめとする観光系統の増便や通勤・通学輸送の増強を行った。さらに、東西線太秦天神川延伸に合わせ、バス車両を760両に増車し、観光シーズンにおける臨時バスの増発などを積極的に実施するとともに、太秦天神川駅を起点とした路線の新設など、市バス・地下鉄のネットワークを最大限に活かした路線の再編を行った。

(3) お客様サービスの向上

ア バス車両の更新 88両

バリアフリー化推進のため、全車ノンステップバス等低床型車両とし、環境対策として、全車アイドリングストップバスを購入し、うち3両を天然ガスバスとした。

イ 市バス・地下鉄インターネット経路検索サービス「洛ナビ」の運用開始

ウ 春、秋の観光シーズンにおける市バス、地下鉄案内「おもてなしキャンペーン」の実施

(4) 交通局庁舎の移転

3 財政状況

年 度 項 目		前年度決算比較（消費税抜額）		
		1 8年度決算	1 9年度決算	増 △ 減
		億 百万円	億 百万円	億 百万円
経 常 損 益	営 業 収 益	187 94	189 83	1 89
	運 送 収 益	176 26	178 31	2 05
	そ の 他	11 68	11 52	△ 16
	営 業 外 収 益	31 59	34 32	2 73
	収 入 計	219 53	224 15	4 62
	営 業 費 用	208 06	211 65	3 59
	経 常 人 件 費	84 03	77 41	△ 6 62
	退 職 手 当	16 86	18 78	1 92
	経 費	89 08	94 55	5 47
	減 価 償 却 費 等	18 09	20 91	2 82
営 業 外 費 用	2 91	3 54	63	
支 出 計	210 97	215 19	4 22	
	差 引	8 56	8 96	40
特 別 損 益		△ 42	△ 13	29
再 差 引（純 損 益）		8 14	8 83	69
利 益 剰 余 金 （△ 累 積 欠 損 金）		△ 131 04	△ 122 21	8 83
資 本 的 収 支	収 入	29 34	33 48	4 14
	支 出	44 26	50 86	6 60
	差 引	△ 14 92	△ 17 38	△ 2 46
資 金 剰 余 額 （△ 不 良 債 務）		△ 132 31	△ 119 95	12 36

4 企業債の状況

年 度 項 目	1 8年度末 未償還残高	年 度 内 増 △ 減			1 9年度末 未償還残高
		発 行 額	償 還 額	差 引	
建 設 企 業 債	億 百万円 101 45	億 百万円 31 42	億 百万円 18 60	億 百万円 12 82	億 百万円 114 27

第2 高速鉄道事業

経常収入	254億28百万円
経常支出	413億33百万円
経常損益	△159億05百万円
現金収支 (償却前損益)	△54億19百万円
△累積欠損金	△2,898億72百万円
△不良債務	△290億92百万円

<主な業務量>

年度末営業キロ	31.2 km (28.8 km)
走行キロ数 〔1日平均〕	52.3千km (51.1千km)
年度末在籍車両数	222両[37編成]
旅客数 〔1日平均〕	319千人 (316千人)
職員数	629人 (641人)

注()内は、平成18年度の数値である。

1 決算のポイント

平成19年度決算は、経常損益は159億5百万円の赤字ではあるが、駅職員業務の一部民間委託化や高金利建設企業債の借換えなど「地下鉄事業経営健全化計画」を着実に推進するとともに、太秦天神川延伸開通に伴いお客様数の増加が図れたため、平成18年度より7億89百万円改善した。また、平成23年度での黒字化を目指している現金収支は、54億19百万円の赤字で、平成18年度より10億79百万円改善した。

2 主要事項

(1) 地下鉄事業経営健全化の着実な実施

ア 地下鉄駅職員業務の一部民間委託化の実施

駅職員業務の一部民間委託化を、新駅を含む7駅において実施

イ 高金利建設企業債の借換え

利息負担の軽減を図るため、国制度を活用し高金利建設企業債を借換え

(2) 東西線二条～太秦天神川延伸工事

本市西部地域における生活交通の充実や観光地へのアクセスの更なる向上を目指して取り組んできた東西線延伸事業について、的確な工程管理により工事の進捗を図り、予定を2箇月早め、平成20年1月16日に開通した。工事完了に伴い、平成13年度以降の総建設費は390億円となった。

(3) 増収増客策

ア ICカード乗車券PiTaPaの導入

平成19年4月1日から、地下鉄全駅においてICカード乗車券の利用サービスを開始するとともに、本市独自のクレジット機能付きカード「京都ぷらすOSAKA PiTaPa」を発行し、商業連携の取組を推進

イ 太秦天神川延伸開通に合わせ、新たな企画乗車券発売と地下鉄沿線エリアマップの刷新

ウ 京都駅女性向け雑貨店の新設など駅ナカビジネスの展開

(4) 安全で快適な地下鉄の運行

ア AED(自動体外式除細動器)の全駅設置

イ ホーム階とコンコース階を遮断する防火戸等の設置

ウ 多目的トイレへの改修や駅手摺り点字表示板の改修など

3 財政状況

年 度 項 目		前年度決算比較（消費税抜額）		
		18年度決算	19年度決算	増 △ 減
		億 百万円	億 百万円	億 百万円
経 営	営 業 収 益	221 55	225 84	4 29
	運 輸 収 益	208 65	212 34	3 69
	そ の 他	12 90	13 50	60
	営 業 外 収 益	28 97	28 44	△ 53
	収 入 計	250 52	254 28	3 76
常 損 益	営 業 費 用	293 35	292 72	△ 63
	経 常 人 件 費	52 11	51 89	△ 22
	退 職 手 当	9 55	9 84	29
	経 費	124 66	124 40	△ 26
	減 価 償 却 費 等	107 03	106 59	△ 44
	営 業 外 費 用	124 11	120 61	△ 3 50
	支 出 計	417 46	413 33	△ 4 13
	差 引	△ 166 94	△ 159 05	7 89
	現金収支(償却前損益)	△ 64 98	△ 54 19	10 79
特 別 損 益		△ 66	30	96
再 差 引（純 損 益）		△ 167 60	△ 158 75	8 85
利 益 剰 余 金 (△ 累 積 欠 損 金)		△ 2,739 97	△ 2,898 72	△ 158 75
資 本 的 収 支	収 入	282 98	411 34	128 36
	支 出	315 93	441 13	125 20
	差 引	△ 32 95	△ 29 79	3 16
資 金 剰 余 額 (△ 不 良 債 務)		△ 289 15	△ 290 92	△ 1 77

4 企業債の状況

年 度 項 目	18年度末 未償還残高	年 度 内 増 △ 減			19年度末 未償還残高
		発 行 額	償 還 額	差 引	
	億 百万円	億 百万円	億 百万円	億 百万円	億 百万円
建 設 企 業 債	2,838 06	[108 92] 193 27	[108 92] 272 47	△ 79 20	2,758 86
特 例 債	154 55	23 21	20 16	3 05	157 60
資 本 費 平 準 化 債	97 57	56 95	0	56 95	154 52
資 本 費 負 担 緩 和 分 企 業 債	704 40	77 82	8 65	69 17	773 57
計	3,794 58	351 25	301 28	49 97	3,844 55

(注) 発行額及び償還額の上段〔 〕は、建設企業債借換分で内数である。